

■ タイにおける 12ft コンテナ見学会及び 室蘭港ポートセミナーの開催

室蘭市港湾部

室蘭港では、コンテナヤードのある崎守国際ターミナルの近くまで JR の引込線が伸びている特徴を生かし、これまで主に国内の鉄道輸送に利用されてきた 12ft コンテナを海外に向けた海上輸送に利用することで、鉄道輸送と海上輸送の一体となった物流の構築を進めております。

また、北海道の中でも、胆振、後志地区という農業及び水産業の盛んな地域を後背地として抱えており、そのような恵まれた地理的な優位性を生かしながら、海外においても知名度が高くなっている北海道産の農水産品や加工品の輸出を促進することにより、室蘭港における貨物の多様化に向けた取組についても進めてきております。

今回、日本企業の進出が著しく、北海道産の農水産品にも注目が集まっているタイのバンコクに注目し、海外における室蘭港の PR と 12ft コンテナによる小口輸送の認知度の向上を目指し、室蘭とタイにおいて道産食品等の輸送トライアル、また現地での 12ft コンテナ見学会、そして室蘭港のセミナーの開催を行うこととしました。

タイへの輸出につきましては、地元の水産会社の協



見学会の様子

力を得られたことから、水産加工品等を約 200 キログラムを温度管理可能な 12ft リーフターコンテナに積載し、12 月下旬にコンテナ航路を利用して韓国の釜山経由でタイのバンコクに向けて輸送しております。

ただし、海外への海上輸送においては 12ft コンテナ単体では輸送ができない現状があり、40ft コンテナと同じ大きさである「40ft ラックコンテナ」に温度管



コンテナ積み込み

理のできるリーファーコンテナ1台と、通常のドライコンテナ1台を積載して輸送をしております。

室蘭市では、市長をはじめ3名がタイのバンコクに行き、1月15日、実際に輸送に使用した12ftコンテナを展示してのコンテナ見学会を実施し、現地の物流関係者等、約20名に参加をいただき、実際のコンテナの大きさを実感し、小口輸送のメリットを確認いただきました。

また、午後からは、「室蘭港ポートセミナー」を開催し、現地の物流関係者や日本料理店等、約20名に出席をいただき、青山市長から「室蘭港の可能性について」、室蘭市港湾部からは「室蘭港での小口輸送の取組について」ということで講演をし、室蘭港のPRと12ftコンテナによる輸送のこれまでの取組を説明いたしました。また、株式会社TAISHIの木村様より「訪日タイ人の急増、高リピート率から見えてくるタイ国内における“Made in 地域”の可能性」について講演をいただきました。

参加いただいた企業等からは、12ftコンテナの大きさに魅力を感じられた方が多くあり、今すぐにでも輸送してみたいとのご意見をいただくなど、予想以上の反響をいただきました。現在、海上輸送に一般的に利用されている20ft、40ftコンテナでは、1社で満載することが困難であるため、また特に食品を輸送する際には、混載による「臭い移り」等のリスクが生じることが懸念されており、その点、12ftコンテナのような

小口輸送であれば、ひとつの企業でコンテナを満載することも可能となることのご意見をいただきました。

ただし、12ftコンテナによる海上輸送の実現には、様々な課題が生じているのも現状としてはあるため、今後、これら課題をひとつずつ着実に解決していくことが、事業化に向けた取組を進めていくためには必要不可欠となっております。

28年度においては、タイのバンコクへ赴き、前向きのご意見をいただいた企業に向けたりサーチや関係機関を通じて、タイ当局への要望活動等は基より、国内外における課題解決に向けた取組を進めてまいりたいと考えております。



セミナーの様子